大泉図書館　図書館利用者懇談会

１　日時　　令和４年10月29日（土）　10時～11時30分
２　場所　　大泉図書館　２階　視聴覚室
３　参加者　　利用者24人
　　図書館　３人（大泉図書館長、館長代理１人、書記）
４　テーマ　　「地域活動の拠点である図書館として、大泉図書館ができることを考える」
５　配布資料　『練馬区立図書館ビジョン』
　　『これからの図書館構想(令和４年11月策定予定)の概要』
　　『大泉図書館の事業をご紹介します!』クリップ止め・16枚
　　《各種イベントチラシ》
　　「大泉学園みかんの会ラジオ体操の集い」チラシ
　　「ねりいち in 大泉学園(11月開催分)」チラシ
　　第９回朗読鑑賞会「想い出は谷を登れば愁い晴れ」チラシ
　　「練馬つながるフェスタ in 大泉!」チラシ
６　次第　　1. 大泉図書図書館挨拶
　　2. 図書館職員紹介
　　3. 事業紹介等
　　4. 懇談

大泉図書館利用者懇談会　会議録

１．大泉図書館長挨拶

それでは定刻となりましたので、はじめさせていただきたいと思います。

これから『練馬区立大泉図書館令和４年度図書館利用者懇談会』を開会いたします。

改めまして、本日はご来館いただきまして、誠にありがとうございます。

本日の懇談会ですが、まず前年度の利用者懇談会以降から今年度10月までに実施した事業の一部についてご報告いたします。

後半は、本日ご出席いたただきました地域のみなさま、図書館を利用されている団体のみなさま、近隣施設の方々からご意見をいただく時間とさせていただきます。

今年度のテーマは「地域活動の拠点である図書館として、大泉図書館ができることを考える」といたしました。

11時30分までの短い時間ではございますが、最後までよろしくお願い申し上げます。

２．職員紹介

館長代理１名、書記１名

３．事業紹介等

大泉図書館はその立地からも、地域にねざした図書館として地域の方たちに親しまれています。今まで当館では、地域とのつながりを大切にした運営を心掛けてきましたが、コロナ禍にあっても、地域の施設や、団体の人たちとの協働による様々な事業を行っています。

今回の図書館利用者懇談会では、昨年度の利用者懇談会以降に実施した事業の中から、今年度のテーマに則した、いくつかの事業についてご報告しました。そのあと、地域活動の拠点であるという観点から各種イベントのチラシを紹介しました。

４．懇談会

図書館　それではここからは会場の皆様にご発言いただきたいと思います。皆さんからご意見をいただく前に、今回の利用者懇談会には出席できないというご連絡をいただいていた「シェークスピアを読む会」さんから、前もって書面にてご意見をいただいていましたので、ご発言をお伝えします。

【シェークスピアを読む会より書面にていただいたご意見】

・運営について

コロナ以降部屋の予約が電話できるようになったのは、借りる側は手間が省けて大変ありがたい。利用申請書を部屋利用当日に提出する現システムの継続を希望する。

・施設について

会議室または、視聴覚室を利用しているが、どちらも設備は整っており、整頓、清掃などの状態にも満足している。

・これからの大泉図書館を考える

広報チラシ等の紙ベースと、ネットの二本立てで情報を発信してほしい。年配者はスマホ、パソコンとも操作できない方々が多いので、そういう方々が情報から取り残されないような配慮が必要だが、電子書籍貸出しも近い将来あると思うので、そのための準備も必要と思う。

図書館　今のご意見は、シェークスピアを読む会からのものでした。これ以降は、今会場にお越しいただいている皆様からのご意見をうかがいたいと思います。ご発言なさりたい方、ありましたら挙手をお願いいたします。

利用者　わたくしは「ひよこ」という布の絵本のグループと、「浜中文庫を楽しむ会」と両方に所属しています。大泉図書館には絵本がたくさんあって、布を使って自分で絵本を作るという会と、特に日本の絵本にとって大事な 1970 年代の浜中文庫の本を読むことで、私たちが作るためにもとても参考になっています。大泉図書館には資料も場所も、そして職員の方のあたたかい支援もあって、本当に快い、心地よい

時間をずっと過ごさせていただいております。こういう恵まれた環境にいるっていうことは滅多にないことで、他の地域とかいろんな団体さんに聞いてみても、こんなに恵まれたところは世界にないというふうに私は自慢にしている図書館です。私たちとしては、今の状態は大変快いのでさらに支援していただけているので私たちの活動はこれからもいつまでも続くことを願っております。ありがとうございます。

図書館　ありがとうございます。どなたかいかがでしょう？そあ季の花さんいかがですか？

利用者　おはようございます。この図書館の並びというかすぐ近くにありますそあ季の花保育園の園長です。よろしくお願いいたします。先ほど図書館さんから図書館見学の報告があったかと思いますけれども、今年もありがとうございました。今回も年長組が休館日にこちらの見学に寄せていただきまして、帰ってくると、もういきなり「行ってきたよ!」って、どうだった？って言ったら「すごいんだよー、地下室があるんだよ図書館って。」など、もうすごく興奮していろいろなことを私に伝えてくれました。そしてついていった職員がひやひやするほどおしゃべりな男の子がいて、何回も同じ質問をしたようでした。「ぼく知ってるそれ！ぼくも知ってる！」っていうことで、職員はなんとか制止したんですけれども、こちらの職員の方たちが忍耐強くそういう子を受け入れつつ説明をしてくださったということを聞きまして、ほんとにありがとうございます。また、今布の絵本の活動のこともうかがいまして、ぜひまたそういった情報も、保育園の活動と連携して、いろいろ教えていただけたらいいなというふうにも思いますし。幼い頃の絵本ってすごく影響力があって、ちょっと私事で恐縮なんですけれども、今年戦争の絵本を月に１回ずつ読みましたら、すごく真剣に聴いてくれたんですね。図書館からもお借りした本とかありまして、3 歳児がじーっと聴いて、すごく私もびっくりしました。どこまでいけるかな、かこさとしさんの『秋』という難しい長い本を静かに聴いていました。ちょっと私も自信をつけたんですけれども、幼い時にやはり伝えたいこと、大人が残していきたいこと、これだけは大事ということを、臆することなく絵本を通して伝えていけるなっていうちょっと実感を持ちましたので、今後もいろいろな面で図書館のお力を借りて、子供たちに伝えていけたらいいなと思いますので、また地域の皆さんの活動もぜひ多く知ってそういう方たちとも連携を取れたらいいなというふうに今強く思いました。よろしくお願いいたします。

図書館　ありがとうございます。

利用者　私個人としては、絵本は決して小さなお子さんのためだけではなくて、本当にそれぞれの方がそれぞれの人生で出合って、絵本っていいな楽しいなというかほんとに好きだなという絵本が大変多いし、ぜひ普通の本を借りに来られる時には、絵本を 1 冊でも読んで、声を出してみたり、おうちの方に語ってみたりして楽しん

で、絵本は一生のお友だちというふうに考えていただくと、おうちのみならず老人ホームとか、幼いお子さんそして中高年なんでもいいと思うんですけれど、さらに英語で伝えれば、いろんなことや世界が広がって心に響くかなと思います。絵本大好きな私としてはそんなふうに思ってます。また、絵本を作り出すという、読むのではなく、作り出すという形も、図書館は合っているのかな、布の絵本はもちろん紙の絵本にしても自らが作り出すための資料がこの図書館には詰まっているということで、私は絵本の愛好者として愛読者としてお伝えしたいと思います。

図書館　ありがとうございます。
図書館からいちばん近いところにある地域包括支援センターさん何かお話がありましたら。

利用者　すぐそこのテニスコートの脇にあります地域包括支援センターの職員です。地域包括支援センターを皆様ご存じですか？
65 歳以上の方のなんでも相談窓口なんですけれども、こちらでいろいろな会を催させていただいておりまして、資料でお配りしていただきましたラジオ体操の集いもこちらのお休みの日にエントランスを借りて行わせていただいております。そのほかにも、認知症の予防ですとか、認知症になってもずっと地域でいきいきと自分らしく暮らせる社会を作ろうということで、今年度から事業が動いておりまして、「大泉学園みかんの会」ということで、こちらで 3 か月に 1 回ですが、会を催させていただいております。主にこのお部屋でさせていただいているんですけれども、回想法といいますか、例えば 30 年前の大泉学園の写真を見て、あの時こうだったねとかいうようなことをみんなで話し合ったりしておりました。その時にも図書館さんの資料をいっぱい貸していただいて、あと経験豊富な図書館さんの知恵もお貸しいただきまして、皆さんすごく思い出してよかったねと言っていただいています。今後もやっていきたいのと、あと先ほどの絵本の話にもあったんですけれども、今度図書館と一緒にお子さんに向けて、オレンジロバ隊長という認知症の方に私は理解がありますよ、困っていることがあったら力になりますよっていうようなマスコットなんですけれども、このマスコットを作る会をして、図書館の方に認知症を題材にした絵本を読んでいただくということで、絵本を通じて幼いお子さんにも認知症について伝えていただけたらなと考えています。私たちの地域包括支援センターのことを啓蒙させていただけたらなと。すぐ近くですので、もし図書館に来て何か高齢者のことで困っていることがあるとか、近所の方のことでこんな人がってことがありましたら、すぐそこですのでお越しいただければと思います。今後もよろしくお願いたします。

図書館　こんな機会なので、何か地域の図書館としてこんなことがあったらいいなみたいに思ってらっしゃる方いらしたら、ぜひ、地域のいろんな方々が集っていらっしゃるので、お話しいただければありがたいです。

利用者　皆さんおはようございます。私 4 月からある小さな放送局でラジオのパーソナリティを始めた 70 歳の区民です。3 月までは大学の教員をしておりまして、完全にリタイアをして、月 2 回ほど東久留米のラジオ局でパーソナリティをやっております。大学とかで学生たちと一緒に図書館を使ってきましたけど、実際に私が研究室もなければ学生もいないという地域の生活者になって、大泉図書館に通わせていただいております。もう研究費がありませんのでなるべく買わずに図書館を利用させていただいてるんですけれども、その中で大変大きな発見というか私にとっては本当によかったと思うのは、この図書館世界一という話ありましたけど、なかなか蔵書に限りがあるんですよね。カーリルっていうサイトご存じですか？それを検索すると全国の 7400 以上の図書館の蔵書が検索できるんですね。どうしても高い本で買えなかった本があるんですよ。それを都立図書館かどこかから図書館に移送してくれて読むことができるってことが、これが今すごくありがたい例で、他の館との連携ということで、これはもうカーリルはもっと宣伝してもいいんじゃないかと思っています。それからもう一つはこの図書館に来て、今まで何回も使ってはいたんですけど、時間と余裕ができたっていうこともありまして、2 階の児童室のところから、外に出られますよね、ぼく「空中庭園」って呼んでいるんですけど、こういう庭園持っているところはそれこそ世界一じゃないかと思います。これもぜひ、なにかあそこで何かミーティングができればとかね、ほんとにお散歩の延長でいいんだけども、すごく宣伝できるといいんだなとちょっと思っています。それからあと、今日報告たくさんありましたよね。今日たくさんの団体の方がいらっしゃってるようですけど、個人も含めて、いろいろ活動されたことの記録っていうかな、やっぱりそれぞれに記録をお取りになってると思うんだけど、活動されたとか参加された、それこそ認知症の方の声を残せるような記録を作っていかれると、もっともっと本、読書、活用、創作、様々な図書館活動につながっていくのではないかななんて思っています。

図書館　ありがとうございました。2 階の庭園については、すごく感動されていらっしゃるとのことですが、確かに館内に庭園がある図書館ってなかなかないんですね。23 区だったらたぶん唯一かなと自負してるんですけど、庭園はいろいろな事業で活用しています。例えば 4 月の子ども読書の日などは、2 階の庭園にテントを張って野外でおはなし会をするとか、1 階の庭園ですと、鳥が来るので鳥の観察会や樹木の観察会といった、外に行かなくても図書館で自然に触れることができて、見たり聞いたりしたものについて調べる道具は図書館にはいくらでもあるというとても恵まれたところなので、そういった利点をうまく活かして、図書館の事業を考えてやっています。それと、大泉図書館はいろいろな団体の方が活発な活動をされています。確かに、活動した記録を自分の団体の方たちは知っているけどほかになかなか出せないというところがあると思いますが、その助けになるかどうかわかりま

せんが、1階のエレベーター脇に団体掲示板というのがございまして、例えば団体で会員を募集しているとか、こんなイベントやりますとかがありましたら、図書館に言っていただければ一定期間掲示することができます。今まではそういう告知ぐらいにしか使ってなかったんですけれど、おっしゃるように、活動報告なども団体のお知らせの中の一つとして掲示するのもありかなと思います。図書館の中で活動する団体の方たちをいろんな意味で支援していくというのが図書館のスタンスなので、何かお困りのことがありましたら、お話しいただければと思います。

利用者　おはようございます。大泉みどりのまちづくりセンターのみどり事業係長をやっております。今ですね、ちょうど庭園のお話が出まして、私も実は初めてお伺いしたもので、まだ庭園の方を見てないんですけれども、大泉学園の風致地区の方々でお庭をもってらっしゃる方々が、ご自身のお庭を地域の方々に見ていただきたいというイベントを年に数回やっておりまして、先ほど大泉図書館さんからご案内いただいたんですけれども、ちょうど今日、明日とちゃい旅というイベントをやっております。それで、地域との連携という今日テーマということでしたので、私の方から些末な提案で恐縮なんですけれども、今庭園の手入れは図書館の方が主にされていらっしゃるんでしょうか。

図書館　大がかりなものは専門の業者を入れてやっています。

利用者　そうなんですね。学園町にお住まいの方ですね、ちょっと私見になりますけども、非常に園芸の知識ですとかガーデニングが好きな方がたくさんお住まいになられているような印象を受けておりまして、例えばそういう方々が庭園のお手入れを一緒にやるような取り組みですとか、お庭でガーデニングやっている方はですね、こぼれ種で増えてしまった植物とか、株分けでどんどんどんどん増やしていって、その増えた植物を、おすそ分けをする機会がほしいということで、例えば図書館さんの方でも庭園を活用して地域の方々が提供してくださった植物でお庭を彩るような庭園を造るようなコーナーがあったりですとか、庭園のところで植物のおすそ分けの物物交換会のようなことをやりつつ、その機会に園芸のコーナーでガーデニングの本ですとか園芸に関する本を帰りに立ち寄っていただくとか、そういうような連携の取り組みで図書館の利用にもつなげていく、そういうことなどからもし、できればまちづくりセンターとしては地域の方々を関係している団体さんにおつなぎするお仕事してますので、何かお力になれるかと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

図書館　ありがとうございます。本日お配りした資料にもある、ちゃい旅なんですが、今年度もちゃい旅のパンフレットですとか関連展示も今やっているところです。それと、大泉図書館には庭園がありますので、毎年ファーマーズマーケットというのを 6 月にやっているんですが、その時に地域の農家の団体さんたちと連携しているのですが、その中に園芸農家さんもいらっしゃって、図書館の1階の庭にお花を

植えるイベントとかやっています。コロナ禍のために 2 年間開催できなかったのですが、今年またようやく開催できることになったんですが、毎回イベントを開催するにあたって団体の方たちと打合せをして楽しい取り組みについて、いろいろ意見をいただきながらやっているところです。大泉図書館の立地を活かして、図書館の庭園や西本村憩いの森など、図書館の近隣のものを活用してやっていければと思っています。

利用者　知的障害者の通所施設トントゥハウスと申します。利用者懇談会には、他の会の関係でずっと出ておりましたけども、今回ねりいちといいまして、ピロティのところでバザーをさせていただいております。それで、今の話なんですけれども、まあみなさんいろいろな団体でコラボして楽しくっていうのをおっしゃってらっしゃるんですが、今のところバザーは単独でやっております。ただね、いろいろなところでバザーをいたしますけれども、図書館にいらっしゃる方っていうのはやっぱりゆったりといらしてらっしゃるのかな、とっても立ち止まってよくお話をしてくださって、そのうえでお買い上げいただくんですね。それで、練馬の駅のココネリのユニクロの前でもやるんですけれどもそこはもうみなさんさっさかさっさか通り過ぎられてあまり収益が上がりません。私どもにとってはものすごくいい場所なんですけれども、やはり宣伝が足りないっていうか発信がものすごくないわけですから、たまたまいらした方が図書館でチラシを見たよとかそういうので来てくださるわけですね。だから何か他の楽しいもので呼び込んでいただくと、私どもとしてはいろいろな方がいらしてくださるかなと思って、でもそれって図書館にお願いするんじゃなくて、ほんとは福祉課の方に言わなくてはいけないことなので、言うのどうしようかなと思いましたけれども、ちょっと今そういうお話がありましたので、関連して皆さんもそういう考えを広げていただけるとものすごくうれしいことだと思います。

図書館　ありがとうございます。毎月所管課から次の月どんな団体さんがねりいちに参加するかというお知らせをいただきまして、その時に今日お配りしているようなチラシをいただいていますので、それを館内に掲示したりですとか、配布用のチラシを図書館のカウンター置いたりというくらいしか今のところ私たちができることはないんですけれども、図書館って常連の方がとても多い場所なので、一度そこで見ると、来週もあるんだなっていうようにちょっとずつ覚えていただいて、横から見ていてるとなんか買い物もそうなんだけど、すごく楽しみにしてお話しされている姿をお見受けするので、まあそこが図書館でやることの魅力なんではないかなと思っています。この地域なんですが、まわりにあんまりお店がなくって近隣の方が図書館に多くいらっしゃっているので、ゆったりとした時間が流れているのかなあと感じます。できる限りの支援をさせていただければと思っていますので、所管課の方に言っていただくのもそうですし、図書館に思いつかれたこと提案

していただければ、所管課の方とも相談してできることからやっていきたいと思いますので、遠慮されずにお知らせください。

利用者　おはようございます。大泉ボランティア・地域福祉推進コーナーと申します。今トントゥハウスさんのほうからお話があったので、手を挙げさせていただいたんですけれども、今日事業の説明のところで練馬ボランティア・地域福祉推進センターのディスレクシア学習障害の取り組みですとか、かたくり福祉作業所の利用者による大泉図書館での本の紹介、あと地域の交流とイベントを一緒にしていただいています。やはり大泉エリアにも福祉作業所がいっぱいあります。その中で図書館を利用する方もいっぱいいらっしゃいまして、本人たちもすごく本を読むことが好きで、イベントをした後に本人たちもここで本を紹介できたことはすごいうれしくて、帰ってからもまたやりたいなって言っているっていう話を聞いています。地域に暮らす中では障害がある方もいらっしゃって、大泉図書館で楽しく過ごすことができているっていうことを聞いていまして、そういう取り組み、本の紹介コーナーを作ってくださったりするので、とてもありがたく思っています。また、そういうことを一緒に取り組んでいけたらと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

図書館　ありがとうございます。地域の中にはいろんな個性を持った方が住んでらっしゃると思うんですけれども、それぞれについて知らないと恐れたり嫌がったりしてしまうことがあるかもしれないので、それぞれの方の個性にはひとつひとつどういう状況なのかわかるようなことがあって、それを知ると自分と変わらない同じ人間じゃないかっていうことで、普通に接していかれるんじゃないかと思っています。まずみんながお互いを理解して、地域の人々がうまく共生していけるような場づくりをするのが図書館の役目ではないかと思っています。いろんな人が来る図書館は敷居も低いので、様々なことができるんじゃないかなと思っていますし、いろんな学びの後、それをより深く知っていただくための資料はいっぱいありますので、そういったところでも図書館が地域に役立てればいいかなと思っています。

利用者　「ねりまおはなしの会」と「大泉絵本の会」でお世話になっております。皆さんお若い方とか次々といろんなことをなさっているのを本当に目を見張る思いで今伺っておりました。私が話すとどうしても古い話も出ちゃうんですけれども、私たちの「ねりまおはなしの会」は 43 年前にできた会で、「大泉絵本の会」は 45 年前にできた会なんですけれども、大泉図書館をつくるときに一番大事にしたのが、地域に開かれた図書館にしたいっていうのが一番の大きな目的だったんですね。それがね、ほんとに年々次々具体的に実現されている、それを今日はまたさらにひしひしと感じました。実際はここで月に 1 回おはなしの会をさせていただいています。それから、「大泉絵本の会」もコロナになる前は個人の家でしてたんですけれ

ども、個人の家で集まれなくなって大泉図書館のお部屋を借りてやろうということになって、今大泉図書館を借りてひと月に1回しているんですね。その中で、去年図書館の方から一緒に読みきかせのための絵本の選書を協働でしませんかっていうお話がありまして。わたしどもの一番の問題は高齢化なんですね、どこまでできるかっていうのがあったんですけれども、若い人がやりましょうって言ってくれたので、1年と何か月かかかりましたね、それでやりました。それで今年度は「世界」と「成長」っていう2つのテーマで、図書館の方が本を選んでくださってそれにわたしたち絵本の会の者がもっとこういうのもあるよっていうのを付け加えて、それで一緒にこれは推薦しようどうしようとかっていうのを検討しています。できる限りわたしはまあ絵本の会とおはなしの会で図書館の方とつながって図書館の方と一緒に活動していって、またもうちょっと広げられたらなあと思います。それから個人的には図書館で偶数月に開催されている「大人のための絵本の会」と、奇数月に開催されている「本でつながる大泉読書サロン」の2つにだけは参加しておりますけども、あと魅力的なのがあってももう参加しきれずにおります。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

図書館　ありがとうございます。今お話しいただいた読みきかせにおすすめの本なんですけれども、今日お配りした資料の中にもありますように、昨年度は季節ごとにおすすめの絵本を選んで実施したんですが、この時は10月～11月の2ヶ月で232冊貸出されています。各回貸出し冊数が多くて、小学校とかで子供さんに向けてボランティアでお母さんたちがよみきかせをする時に、どういう本を読んだらいいかすごく悩まれているっていうお話をいっぱいいただいていました。それで、地域の図書館としてきちんと選書して提供しなければいけないと思っていたんですが、やはり私達も若いスタッフが多いので、ここは「大泉絵本の会」さんの力を借りて、一緒に選書していければということで進めた事業でした。この協働事業を通して、若いスタッフたちも自分で選んだものについて、他の方から違う視点で評価していただいたことで、知識の幅が広がりました。利用者の方にとってもよい結果となりましたし、スタッフについても絵本の奥深い世界を知るよい機会になったと思っています。本を読んでこれいいですよって勧められるのが、図書館司書としていちばんの根源だと思っていますので、絵本に限らずですが、そういったところで勉強の機会を与えていただいたことに感謝しております。「大人のための絵本の会」「本でつながる大泉読書サロン」ですが、それぞれ絵本か一般書を対象として隔月でやっているんですけれども、コロナ禍にあって、他人とのつながりがとても希薄になった時に、本を通じてだったらいろんな人とつながることができるということを痛感しました。それぞれの会の中で参加者同士がいろんなことを話したり、あの人こんな本好きかもしれないと思ったりだとか、本を通して他の人のことを考えられるようになったことに大きな意味があると思います。図書館ならではの特

色を活かして、地域の人たちとのつながりができるのがとてもよかったなと思っています。毎回いらっしゃる方や新しくいらっしゃる方もいて、それぞれが違和感なく溶け込んでお話をしているのがとてもありがたいことだと思っています。

利用者　ちょっと付け加えさせていただきますと、わたしたちもずっと見てきた絵本を見直す機会でもあったんですね。それから、知らない図書館の人たち、若い方が多いですから図書館の方は、世代の違いを感じましたし、私達本を選ぶっていうのは非常に難しくて、「これがいいんですよ、これだけですよ。」って取られると困るんですね。こういうのもありますよっていうくらいのもので、例えば図書館がよみきかせをされる方に向けた、ひとつの目安にしたいということだったので、それならお引き受けしようということでいたしました。

図書館　ありがとうございます。

利用者　度々すみません。あの今選書の話が出ましたですよね。それからよみきかせの話が。一応私も図書館活動に関わっていたんですけども、色々こう見てるとですね、選書も私たちのような高齢者とか先輩たちがというだけではなくて、やはりこう子供たちが出合った絵本とか本を選んでいく、それを企画するなんていうようなまた仕事増やしちゃって申し訳ないんですけれど、なんていう未来をたくさん持っている子供たちにこそそういう参画をしてもらうといいんじゃないかなと思っていまう。もちろん、我々の知的財産というか先輩の方々の財産も、継承しながらやるということで。でも逆に選書とかあるいはよみきかせも、大人が子供たちでなく子供が我々のように年寄りとか年配の方に上級生に読んで聞かせる、そういう双方の関係性があっていいのかなと思っています。私は今「よみきかせ」ではなくて、「読み聞きの時間」ですとか「読み聞きタイム」ですとか言ってるんですけども、フラットな関係でね。読み語りっていうのもありますけれども、そんな形でちょっと視点を未来志向で持続可能な開発目標 SDGs 的発想にすると、子供たちの可能性を引きだすということで、やっていくといいなと思います。

図書館　ありがとうございます。今子供たちに選書をということでしたけども、大泉図書館では中学生・高校生の「本友(ブックフレンズ)委員会」が毎月定例会をやっておりまして、そこで参加している子供たちにどんな本を入れたらいいっていうことを聞いたりですとか、閉架にある本で、今の子供たちの感覚でこれはまた開架に出したらいいんじゃないかというものを選んでもらったりもしています。小学生では、「ほんともキッズクラブ」というものがあるんですが、こちらも毎月 1 回年間を通して活動しておりまして、3 月に子供たちが自分たちでおはなし会を開催して、外から募集をかけて一般の方に読み聞かせるということをやっておりますので、機会があればご参加いただければと思います。

利用者　朗読のいずみです。皆さんのお手許にこういうチラシが、11 月 13 日に朗読鑑賞会を開催するチラシが入っています。そちらにもぜひよかったらおいでいただき

たいんですが、これにあたりまして、私どもの団体、高齢者の方がほとんどなんですね。90 歳を超えた方が作品選びに非常に困りまして、絵本から選びたいと言うんで、実は図書館には大型絵本といいまして新聞紙を広げた大型の絵本がある、それですと、朗読鑑賞会(この視聴覚室行う)でも、後ろの方でも見えるんですね、そういうのをおすすめして、「ここの図書館の方非常に親切に指導してくれるから相談に行ったら。」と話したら会のものが相談に行ったんですよね、それで、選んでいただいたのが 1 部の 4 番目にある『ひさの星』なんですね。その時に、その絵本を持ってきてその方が教室で練習している時につくづく思ったんですよ、作者の方は斉藤隆介っていうんですけども、ひさという小さい子なんですけども、常に弱い子とか困っている子を助ける子なんですね。で、ある時ほんとに小さい男の子が川でホタルをとろうとして落ちてしまった。ひさは自分のことを犠牲にしてでもその子を助けたために川に落ちてしまった。で、天にホタルの星としてずっと輝きだしたっていうとてもいい本なんですね。その本の作者が言ってるんですが、戦争とかいろいろある今こそ、SNS でももうほんとに大変な世界になってると思うんですが、そういう心がみんなに芽生えたら、どんなに平和な社会になるんじゃないかって、そういうような理念が皆さんがやってらっしゃる世界に通じるものってことで、とてもひとりひとりにとても優しい、それから大きなビジョン理念というものをいつも感じて、ほんとに感謝してるんですよね。こういうことで一生懸命働いている方たちが練馬の正職員ではないんですね。指定管理者に移管されているんですよね。そういう基盤をちゃんとしたものにしないとね、もう何か間違えているんじゃないかと思いますよ、皆さんどう思います？ネットでもね、時々そういうのがぱあっと飛び込んできます。いろんなものを見てるとね。私もつくづく思います。皆さんはね、いろんな公務員の方たちもがんばっていらっしゃいますけども、それ以上にほんとに素晴らしいと思います。いつもいつも感謝しております。それが言いたくて…。

図書館　ありがとうございます。

利用者　漱石の会です。いちばんの悩みは、皆さんご存知のように高齢化でですね、若い人に入ってもいただきたいと思って、年齢制限設けてないんですが、なかなか集まらない。そうするとね、実は、知っていただきたい漱石の文学も、我々がいろいろ経験して考えることとそれから漱石自身が、悩んで、本書いてというものを学校以外に伝える所がないんですね。いちばんそれを大事にするのは図書館なんですけども、図書館でもこれだけ膨大な本があって、まあインターネットでもね、若い人たちは買えます。しかし実際に読んだり感想を言ったりまた講師の方から話を聞くっていうことは、実際の体験の中から、朗読とか読書会とか講座とかっていうことの中からたくさん若い方に知っていただきたい。ところが、なかなか集まらない。朗読の会とかいろいろやってらっしゃいますけど、何か工夫されてるんでしょう

か今日それぞれの活躍している写真を見てますと、後ろから写真撮ってますけどほとんど年齢が変わってませんよね。もうターゲット通りの年齢しかその会に集まらない。これだと交流がなかなかできない。ですからちょっと皆さんアイデアがあればほしいなあと思っています。そういう意味で言うと図書館もイベントのターゲットとして、この年代とかこの人たちにこの本読んでもらいたいとかっていうのはあるでしょうけど、もう少し年齢差を取っ払った視点で、宣伝していただくとかね。それから、皆さんもそうでしょうけどイベントするとき何か工夫して新しい人たちに会員になってもらったり、参加してもらいたいっていうときに、どうしたらいいのかと思っています。漱石自身が生まれて悩みを持って、あのような文学を作り上げて、百何十年という間ずっと読み継がれてきて、その普遍性は勉強すればするほどわかるんですが、そうすると若い人たちに入っていただいて、悩みを持っていらっしゃる人や、悩みのない人も含めて、読書を通して一緒に交流の場を持っていきたいなあと思っています。

利用者　若いっていうのは何歳ぐらい？

利用者　幼稚園でもいいしね、誰でもいいんです。

利用者　でもそうすると時間的な制約があるのでは…。

利用者　もちろんありますよ、ですからそういう人たちが来られた時に、皆さんがやってらっしゃる会の中の一部分をそういうものに充ててもいいでしょうね。

利用者　見学会とかでしょうか？

図書館　ありがとうございます。確かに、漱石の会さんがおっしゃるように図書館で事業をする時もなかなか若い年代に伝わらないなと思っているところです。

利用者　「夏目漱石を読む練馬読書会」もやっぱり年齢層がだんだんだんだん上がっていって、入ってこられる方も 70 過ぎ 80 近いので、今後の不安があります。この 10 年間にやってみて考えたら私達どうもこの図書館の中で孤立してるような、ほかの団体の方たちとの交流が、全くないんですね。まあ定期的にやりますけども、もう少し交流ができるような形で情報交換ができて、そういうような雰囲気ができればもうちょっとそこから若い人たちが入れるような糸口がつかめるんじゃないかという、そういう気持ちを持っております。先程から子供さんたちの読み聞かせの話がありましたけれども、今までいろんな本を読んだり、いろいろと経験をしてきた中で、一番印象に残っているのはお母さんから読んでもらったその時の記憶なんですよね。だから皆さんが子供さんたちに読み聞かせをした時に、お母さんたちがよみきかせの環境を家庭内で作ってあげられるかっていうことが大切なんじゃないかなと思います。

図書館　それぞれの団体、たぶん同じように悩んでらっしゃると思うんですけど、図書館も同じように、悩んでいますのでいろいろ試行錯誤しているところです。

利用者　そうですね、まあその情報が交換できればね。

図書館　あとは大泉図書館でいろんな団体さんが活動されていてそれぞれに独立しているから交流の場があったらいいなあっていうところは、また今後何かできるか考えていきたいと思います。すぐにはできないかもしれないですけど。ありがとうございます。

利用者　それぞれの活動時間っていうのが、だいたい主婦とかそういう年齢層の日しか設定しないで活動してるので、例えば順番に、今日は夏目漱石の日とかいうのを日曜日とか土曜日誰でもが来れる時間帯に設定して、例えば布の絵本を作る会だったらその日に小さいお子さんもお母さん一緒にね連れてきてあげてやってみますとか、それを1年間にひとつずつでも、どの団体でも入れるようなそういう工夫して、浜中文庫だと英語の絵本を一緒に読まない？っていうような、それを若い人たちが来れるような日に設定して、オープンカレッジみたいな、オープン活動っていうふうなものにしても、今漱石の会さんから聞いて、自分たちにだけ都合のいい時間を使ってるので、図書館の方でこの時間どなたか、どこかのグループさん登録してくださいみたいなふうにすれば、もしかしたらちょっと若返るかもしれないと思いました。

利用者　今の漱石の会の方に質問なんですけど、これは皆さんにも質問なんですけど、なぜ、漱石の会の会長さんは漱石と出会ったのかとか、ご自分の子供のころからのライフヒストリーを思い起こしながら小さい頃の自分のことを語りながらなんかちょっと紹介文を書くとか、今朗読をやってらっしゃる方とかいろいろいますよね、そのご自身の中で若い頃から現在に至る長い時間があるんですけれど、ご自分のライフヒストリーを簡単に、きちんと本を書くっていうことじゃなくて、例えば「図書館と私」っていうテーマでもいいですし、そういうことをなんかやって、それを子供たちにわかるような優しい言葉で書いておくといいんじゃないかなんて思います。私も今年8月に小学校1年生から6年生までの子供たちとワークショップ、「絵本の世界から、SDGsを考えてみよう」というイベントをやったんですよ。ほんとに勉強になりました。子供たちにわかる言葉をどう選んで、どう言葉をかけるのかって勉強させていただきました。若い方を集めるのにどうしたらいいかっていうヒントがそこにありそうな感じがします。

利用者　わかりました。努力して、とにかくまあひとりでもふたりでも体験していただければという気持ちなので、小学生中学生じゃ難しいでしょうけど、なるべく参考にしながら努力してみたいと思います。

図書館　ありがとうございます。それでは遅れていらっしゃったさくらさん何かありましたら。

利用者　大泉障害者地域生活支援センターのセンター長なんですけど、今お話を伺ってて、私多分諸先輩世代と若い世代のちょうど真ん中ぐらいにいるんですね、それで、私は若い世代を見ると SNS の使い方とかやっぱりちょっと違和感を覚える世代で

はあるんです。ただ思うのはなんでそんなに SNS に夢中になっているのかなと思って、ちょっと自分もやってみないとわかんないなあと思って、Twitter をやってみるのをここ 2 年ぐらいで始めたんです。なんかおもしろさも解ったんですよね、こうやって人同士がつながっているんだとか。とかくマイナスのイメージばっかり耳に入ってくるんですけど、実はすごく楽しんでいていいつながりを持っている人たちがインターネット上にもいるんだなっていうか、そこにコミュニティみたいなのがあるんだなっていうのがやってみたらわかってきたんですね、それで、各それぞれの会の魅力が若い人に伝わってないのは、情報が届いてないっていうのが一番のとこなのかなと思うんですよね。中身に魅力がないわけじゃなくって、たぶんつながれてその場にいらしたらその素晴らしさって世代関係なくわかるんだと思うんですけど、たぶん情報が届いてないんだと思います。すると、つなぐためにはちょっとこちらも若い人が情報を取り入れるための手段を、Twitter をやるとか Facebook をやるとかそれからあと朗読だとほんとは生での読み聞かせがいいんでしょうけれど、今動画っていう手段があって、若い人は動画から入りますので、その動画の中で魅力を少しでも伝えられればそこをきっかけにして入ってくるっていう人たちがいるんじゃないかなと思うんです。なので、ちょっとそのつながる手段の工夫として若者が使っているツールを少し取り入れてみたら、なんかこう少し広がるかなっていうのは、中間の世代として自分の体験も含めて思いました。あと、もうひとつだけ、待ってても来ないなって思っていてもたぶんつながれないと思うので、若い人呼んじゃって、図書館に先程のね、本友(ブックフレンズ)委員会とかあるんだったら、ちょっとその世代の人の意見を直接聞いてみるっていうのはどうかな。こういうサークルやってるんだけど、こういうチラシを配っても全然入ってくれないんだけれどなんでかなって、若い人に直接聞いたら、たぶんいやそれはこうだからですよってたぶんすごいいっぱいヒントをくれるような気がするので、なんか直接聞く機会が、もうちょっとこう離れた距離でいるところが近寄っていけるんじゃないかなって思いましたので、区民としてちょっとうかがって感想を述べさせていただきました。

利用者　ありがとうございます。

利用者　全然違った面からなんですけども、いわゆる我々世代が常識的に読んでいたものとか、古典って言われるものをどれくらい練馬区内の図書館で所蔵しているかっていうと、全集はありますけれど、『高慢と偏見』というのが我々は必ずと言っていいくらい読んでいたんです。それから『ジェーン・エア』や『嵐が丘』とか。でもね『高慢と偏見』が練馬区内の図書館には数冊しかありません。文庫本が 1 冊か 2 冊だったかな、それと別の邦題での 1 ～2 冊とか、その程度ですので、漱石なんかについては学校では、高等学校なんかでは必ず出合うと思いますけども、本がいっぱいあるわけですし。今若い人たちとか我々の次の世代、その次の世代の人た

ちにも読みたい本がいっぱいあって、それぞれの世代で絶対私達にとっての『高慢と偏見』のような存在の本がきっといっぱいあるんだと思うんですね。そういう中で漱石にどう向かわせるかっていうのがあるのかなあと思いました。とにかく、蔵書としては全集以外あんまりなかったんです。そんな状況です、蔵書に限りがありますからね。

利用者　トントゥハウスとは全然別個なんです。だいぶ長らくしている会に所属しているんですけれども、皆さんはどんどん増やしたいというご希望の会ですよね。私共はあまり増えると今回コロナのこともありますので、入る場所がないっていうのもありますし、それから、やっていくことがもう突き詰められないっていうことがあるので、あんまり宣伝はしていません。それで、やることも実はオタクじゃないと入らないかなっていう古文書です。古文書でもいわゆる研究会っていうのはちゃんとしたのは練馬区にあるんですけど、そこから派生して寺子屋っていうのをやってます。寺子屋式にかなを読む、かな文字を読む、そうすると、草紙ものやなんかは全部ふりがなが付いてますので、一応読んでいけるっていうコンセプトなんですね。それをやってるんですけれども、やはり年齢がだんだん高くなっちゃいますので仕方ないなと思いますけれども、やっぱり上がだんだん抜けていくんですね。そうすると不思議とまあ 70 歳代、65 歳から 75 歳ぐらいの方が、来られてはまってしまわれて定着する、だからまああんまり新しい人がほしいなっていうのでなければ、少しずつ代が替わっていくかな、ただその興味の持ち方が皆さん違いますので、その興味の持ち方をどういうふうに宣伝するかということなのかな、それで今さっきのお話ですけれども、若い人向きだと今私たちトントゥハウスでも Instagram してます。そういうふうにしていかないと、引っかからないと思います。

図書館　ありがとうございました。

利用者　私今日は朗読の会としてきましたけれど、もうひとつブックスタートっていう赤ちゃんが 4 か月検診のときに、赤ちゃんに本を 2 冊プレゼントしますよっていう会をやっております。その中で初めてお子さんをこの図書館に連れてこられると思うんですね。そしてコロナ前は輪になって手遊びをみんなでお子さんと一緒にやっていました。それから差し上げた本を読んで聞かせてあげました。「上手に読まなくてもいいんですよ、ご家庭の方で読んであげてくださいね。」と話しています。その中で、布の絵本を作ってらっしゃる人もいらっしゃいましたので、その紹介もしています。1 歳 2 歳の小さいお子さんのために、よみきかせの会を作っております。そこでは紙芝居とか大きな絵本とか、布の絵本とかまあ小さい子供が読むような絵本を紹介したり読んだりしてます。それには図書館の職員の方も参加してくださっています。そしてまた年配の方も、100 歳時代って来てるんですね。だからそんなに落ち込まずに、どんどん若い人たちに教えてあげてほしいんです。

こういうことを図書館の方とも協力してやっています。助かっています。朗読会も、先ほど話してくださいましたけれども、ほんとによく、細かく準備も一緒にやって下さってるし、また私朗読で何を読もうかってなった時に、本の中の一篇にしか書かれていないものを、どこにあるのかと思ってどうしてもわからないわって言ってお聞きすると、何とかの本の中に入ってますよって教えてくださったり、それから小さいお子さんの選書も、みんなでやってててどんな本を子供たちに教えてあげたらいいんだろう、読んでもらったらいいんだろうっていうことも、図書館の方には大変お世話になっておりますので、どうぞ明るい希望を持ってやっていきましょう。それで、子育てがすんだ方のお友だちが、朗読もやってますよっていうことで私は朗読をするようになりました。そうすると、よみきかせの時こんなことをやったりこういう状況で読んだ方がいいのよって教えてもらっているので、大変助かっております。この間漱石の会にちょっと参加させていただきましたけれど、ずいぶん深く掘り下げたことをやってらっしゃるんだなと思って、感心いたしました。ありがとうございました。

利用者　じゃあ少しは希望を持って。

利用者　はいがんばりましょう。

利用者　うちの子供がブックスタートで本を大好きになったので、今小学校 3 年になったんですけど、今でもやっぱり図書館に行って借りているんですよね。『ととけっこう』を読んでもらったんです。それで、思うのは朗読の中で朗読することそのものよりも、朗読をした時子供をひざにだっこした時の体験とかあったかい気持ちっていうのをすごく覚えていて、子供もそれを覚えているので、そういう意味での朗読っていうのが、読むことそのものよりも子供と過ごしたその時しかなかった時間っていうのが図書館の中でも体験できたし家でも体験できたっていうのがすごく大きかったなっていうので、ありがとうの感謝の気持ちです。子供は健全に育っていますというご報告させていただきます。

図書館　ありがとうございます。いろんな団体の方、いろんな方からお話をいただきました。その中で、団体同士いろいろつながりたいということとか、課題点などもいろいろお聞きできました。同様に図書館も悩んでいる部分もありますので、少しづつでも改善していけたらいいなと思っております。お話は尽きないところではございますが、ちょうど 11 時半になっております。

利用者　ちょっと最後にいいですか。皆さん『ニューヨーク公共図書館エクス・リブリス』というドキュメンタリー映画をぜひぜひ観てください。私はあれを観て、図書館と福祉事務所がハブになっていることを知りました。ニューヨーク公共図書館は私自身は行ってないんですけれども、いろんな人から聞くとそういうことなので、今ちょっといろいろお話を聞いていると、この図書館もちょっとそういう方向に向かっていってるかなと思いますので、私ども地域のものとしてはやはり、あそこに

行かなくちゃいけない、ここに行かなくちゃいけないっていうんじゃなくて、ちょっといろんなことがそこでできればなっていう場所であるっていうことは、ものすごく大事なことだと思います。それからやはり職員の方たちがものすごく資料に関して豊富な知識を持っておられるっていうことをものすごく頼りにしておりますので、そういう意味で期待し、がんばっていただきたく思います。ありがとうございます。

図書館　ありがとうございます。何か一つのところとつながるというのではなくて、大泉図書館が地域の図書館としていろんなところとつながるいっぱい手を持っていたいと思っています。いちばん最初に大泉図書館ができたときに「暮らしに役立つふれあいの図書館」を目指そうというスローガン、そのスローガンをちゃんと心に刻んでこれからも運営していきたいと思っております。では、時間となりましたのでこれで閉会とさせていただきたく思います。引き続き図書館の運営にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお光が丘図書館の懇談会は11月19日土曜日午後2時から4時まで行われます。

本日は貴重なご意見をいただきまして、まことにありがとうございます。